

【講座名】	講座Ⅱ 「障がい特性及び発達の段階に応じた指導・支援の在り方」	
【講師】	県立都城きりしま支援学校 校長 松田 律子	
1 講座の内容	<p>(1) 知的障がいのある児童に何を教えればよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ニーズに応じた適切な指導 <ul style="list-style-type: none"> ・「必要な支援」に目が向きがちだが「教育的ニーズ」「適切な指導」も必要 ○ 実態から選び取った指導内容 ○ 実態把握に始まって実態把握に終わる ○ 実態把握の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達がどのレベルかを把握する。 ○ 実態を把握しても指導に生かすのは難しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導に生かすためにはその発達のプロセスが分かっていると指導・支援ができない。 <p>(2) 発達のプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達の5つの法則 <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭部から足部へ 2. 中心から末端へ 3. 一般から特殊へ 4. 発達は段階的に連続して進む 5. 発達には個人差がある ○ ピアジェの発達理論 <ul style="list-style-type: none"> ・矛盾と葛藤をいかに起こさせるかが重要 ○ 発達を促す指導・支援 <ul style="list-style-type: none"> ・発達のプロセスを把握し予測 ○ 子どもの認知発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・運動の回転軸、運動の連結など ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・発達の横の拡がり大切に <p>2 質疑応答 なし</p> <p>3 感想</p> <p>実態把握を支援に生かそうとするときに、子どもの認知発達の特徴を知ることによってどのレベルから指導・支援をしていけばよいかを見極めることができることが分かった。</p> <p>新しいシエマを獲得するためには矛盾と葛藤が必要だが、矛盾に気づかせる手立てが難しいと感じた。子どもがなりたいたい自分になれるように今後の授業実践に役立てたい。</p>	
講座の様子		